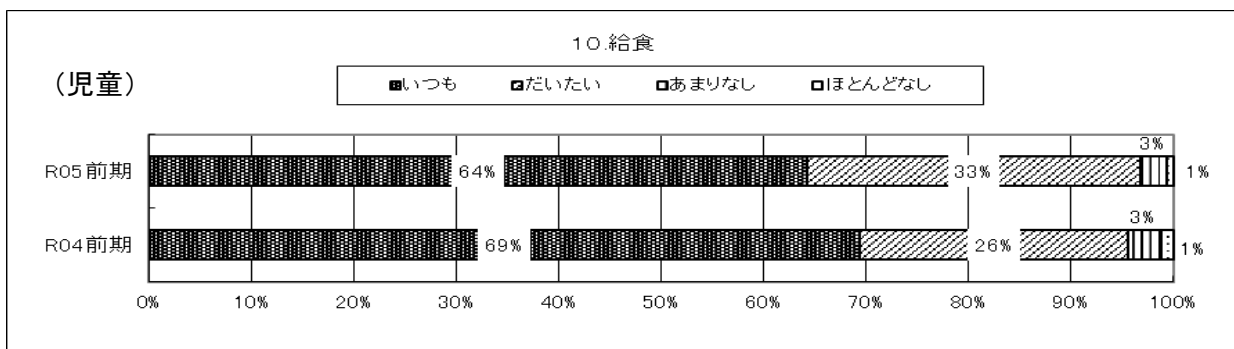
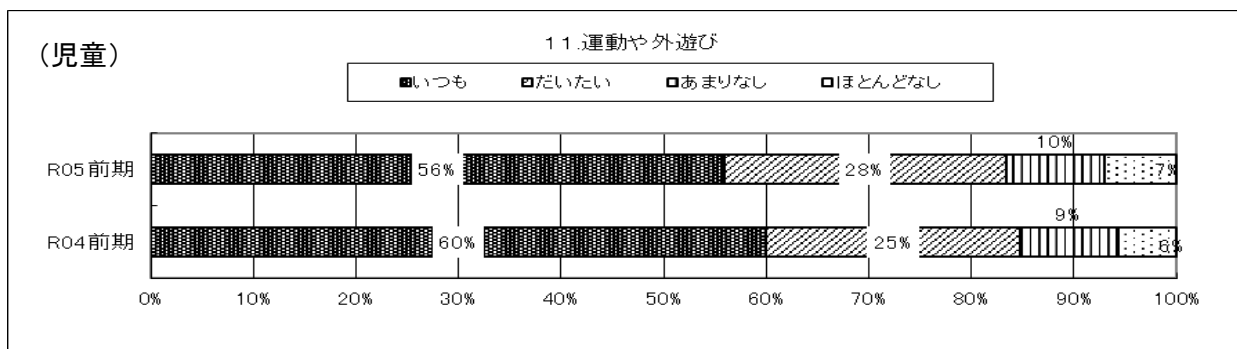


Ⅲ 健康と体力

児童の状況		自己評価A	学校関係者評価	外部評価委員のコメント
健康や体力向上への関心をもち、望ましい生活習慣を形成しようとしている。	前期	おおむね良好	良好	関心を持たせる取組が見られる。継続させることで意識から行動できるように育てて欲しい。そのためにも児童一人一人に明確な目標を持たせてほしい。 メディアは親の指導が大切。親が変われば子どもも変わる。マイナス面だけでなくよかった点を紹介することで、メディアコントロールに対する意識が高まることも考えられる。
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】			
	<p>①「ジョギングナウ」や「ラジオ体操」など、運動委員会が主体となって体力向上に向けた取り組みを行った。運動や外遊びを「いつもしている」「している」と答える児童が84%を占め、体を動かす意欲が高い状態を維持できた。</p> <p>・給食センターの栄養士を招いて食に関する指導を行った。全学年で実施し、学年に合わせた指導を行うことで、自分たちが食べている物にどんな栄養があるか、なぜバランスよく食べることが大切なのか知ることができ、苦手だった物も少しは食べようという意識が高まるとともに、残食が減った。</p> <p>②メディアコントロールの講話や、メディアコントロール週間、長期休み後の振り返りを行うことを通して、「今日はゲームをやり過ぎたなど自覚できるようになった。」「自分は朝すぐにゲームをやってしまうから、これからの生活でそこを直して行きたい。」など、メディアコントロールについて意識の高まりがみられた。</p> <p>③生徒指導部や学級担任と連携し、遊び方の指導、コロナや熱中症対策の指導を行った。保健室来室者は、昨年度に比べて減少し、子どもたちの自己管理に関する意識の高まりが見られた。(令和4年度 1329名、令和5年度 1001名 328名の減)</p> <p><後期の取組></p> <p>①体力テストのデータを基に、能力の向上を図る運動を取り入れ授業で実施する。また、運動委員会を中心とした、楽しみながらできる体力づくり運動を感染防止に努めた上で実施していく。</p> <p>②給食委員会が、給食の献立に使われている食材や栄養について毎日放送し、バランスよく食べることなどの意識が継続できるようにしていく。ワンダフル給食・もりもり食べよう運動・ありがとう給食</p> <p>③2学期、3学期にもメディアコントロール週間を設ける。大館市の取り組みと合わせてメディアコントロールへの意識を高め、よりよい生活習慣が醸成されるよう継続して取り組んでいく。</p> <p>④コロナやインフルエンザなどの感染症対策の意識付けをしたり、情報発信をしたりするなどの保健指導を継続していく。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
6 保健指導	(6)健康な生活習慣の形成	保健指導(健康観察・清潔検査等), 清掃活動の充実, 感染予防の徹底	3	
		給食指導, 食に関する指導の実施		
7 体力の向上	(6)継続的な体力づくりの実践	体力向上のための指導の充実	3	
		体力テストの実施と分析・活用		
8 メディアコントロール	(8)適切なメディアコントロールの実践	メディアコントロール週間の実施と分析・授業(指導)への活用	3	

※学校教育アンケートから



メディアコントロール講話。「遅くまで動画を見ている人はいませんか。」メディアコントロールができないと、体にどんな影響があるか、メディアと上手に付き合うには、どうしたらいいかなど、子ども同士で考える様子が見られました。

1年生の食に関する指導では、給食がたくさんの方の手で、どうやって作られているか知ることができました。終わった後の感想では、「自分が食べている給食が、どうやって作られているか初めて知りました。」「苦手な野菜も頑張って食べてみようと思いました。」など、食べ物への関心が高まっている様子が見られました。



運動会前に行った「ジョギングナウ」では、「運動会まで後〇日です。」など、運動委員会が呼びかけ、運動会への意欲も高まっていました。運動会種目に全員リレーなどもあったためか、学級の友達同士で声を掛け合い。励まし合いながら走る姿も見られました。

5月末に行われた「教育長杯、ロープジャンプX」では、6年生のチームが大館市内で、1位と3位に入賞することもできました。